

うさぎのお世話から気づいたこと

保育のねらい： うさぎ小屋の掃除やお世話する中で、動物がどんな物を食べて排泄するかに気づく。

対象：5歳児 作成日2019年10月30日(木) かえで組 進藤早苗



保育の振り返り

年長児3クラスで交代でうさぎのお世話をしています。うさぎのお世話にあたっている子は、うさぎ小屋の掃除やお水替え、ご飯の用意も担当します。当初はうさぎ小屋を開けると、「わーうんちだ!」「汚い。」と言いながら、進んでは掃除しなかったり嫌がる様子も見られていました。保育者が「綺麗になったら気持ちいいね。」「ありがとう」「うさぎさんも喜んでいよ。」と伝えたり徐々に「今日も沢山うんちがあるね。お腹いっぱい食べたのかな?」と会話を楽しみながら掃除を進めるように取り組んでいきました。そんなやりとりもあってか、ご飯の用意の時に「沢山人れたらお腹痛くなったら大変だよ」や、「あまりうんちないな。」と毎日の排泄の変化にも気づくようになってきたので、読み聞かせの絵本で食育の絵本を読みました。『お腹の調子を整える食べ物』があることや、『うんちをだす大切さ』も書かれている内容でした。うさぎの食べ物についても、自分たちと食べるものが違うことや、草や葉っぱをどうして食べるのかも気づくようになりました。

「全然ご飯食べてないよ!」とうさぎの体調も気遣う優しい言葉が出てきたり思いやりの気持ちも育まれてきました。掃除が終わると小さい組さんも集まってきてうさぎを見にきます。「綺麗になったからご飯あげていいよ」と声をかけています。子どもたちを見ていると以前は保育者のお手伝いをして褒められて嬉しいなと感じていた気持ちが、今では自分の行動が誰かの役に立っているんだという実感、喜びへ変わってきたのではないかなと感じています。(健康な心と体、自立心、協同性、社会生活との関り、自然との関り・生命尊重) これからも子どもたちの興味や関心を大切にいろいろなことを発見していきたいです。